

## 主の昇天

ルカによる福音 24:46-53

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「聖書には次のように書いてある。『メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる』と。エルサレムから始めて、あなたがたはこれらのことの証人となる。わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」

イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。

### 説教

イエスは聖書にはこのように書いてあるとって弟子たちにこう伝えました。

**メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。ルカ 24:46**

イエスのこの預言は2000年後に実現しました。イエスの教えは教会をとおして世界中に広まりました。

しかし、世界が平和であるかといえはそうではありません。神の救いはいきわたっているとはいえません。どうしてでしょう。教えが間違っていたのでしょうか、それとも教えは正しいけれど宣教の方法がまずかったのでしょうか。

イエスは神のことばとして旧約聖書をひと言でまとめて「罪の赦しを得させる悔い改め」といっています。神からの目線では人間は神にさからい罪を犯しました。しかし、神はこの件に関してはイエスの口をかりて「赦す」といっています。神が赦す条件は「神さま、ごめんなさい」です。くだけた表

現ですが「悔い改め」すれば「赦す」といっているのですから、神はあやまれば赦すといっています。これがイエスが昇天の際にひと言でまとめた旧約聖書の解釈です。

日本語では悔い改めは回心ともいいます。聖書の原語（ギリシア語）ではメタノイアといえます。日本語で「悔い改め」というと刑罰の意味合いが濃くなるし、また回心といってもピンとこないのでここではメタノイアと言うことにします。

神はヒトにお互いにつながって愛しあい、助け合うことを求めています。イエスの教えに従い人々は神の赦しを得るためのメタノイアを実行します。神に従う、もう神に背かないと誓った人が罪の赦しを得ます、メタノイアした人は互いにつながり、おのずから愛しあい、助け合います。このようにしてイエスのことばに従った人々によって教会が形成されました。

ここで重要なのは、おのずから、自然とそうになってしまうというところです。あるときイエスはたとえ話をしました。道端に倒れていたユダヤ人をサマリア人が助けるという話です。（ルカ 10 章 30 節以下）このたとえのポイントはサマリア人は当たり前のように助けたという処です。ユダヤ人祭司やレビ人が知らんぷりして通り過ぎていくのにサマリア人は自然に助けてしまったというところです。メタノイアしているのがサマリア人です。メタノイアしたサマリア人はエゴが消えています。彼は我欲から自由になって苦しむ旅人を救いました。一方、神に仕える身である祭司やレビ人には我欲があり、それゆえに苦しむ同朋の旅人を見捨てました。彼らにはメタノイアが必要です。イエスの昇天の際の教え、メタノイアはわたしたちにとって大切なことばです。わたしたちが我欲を捨てさり、主のみちびきに従う力をお与えください。

-----